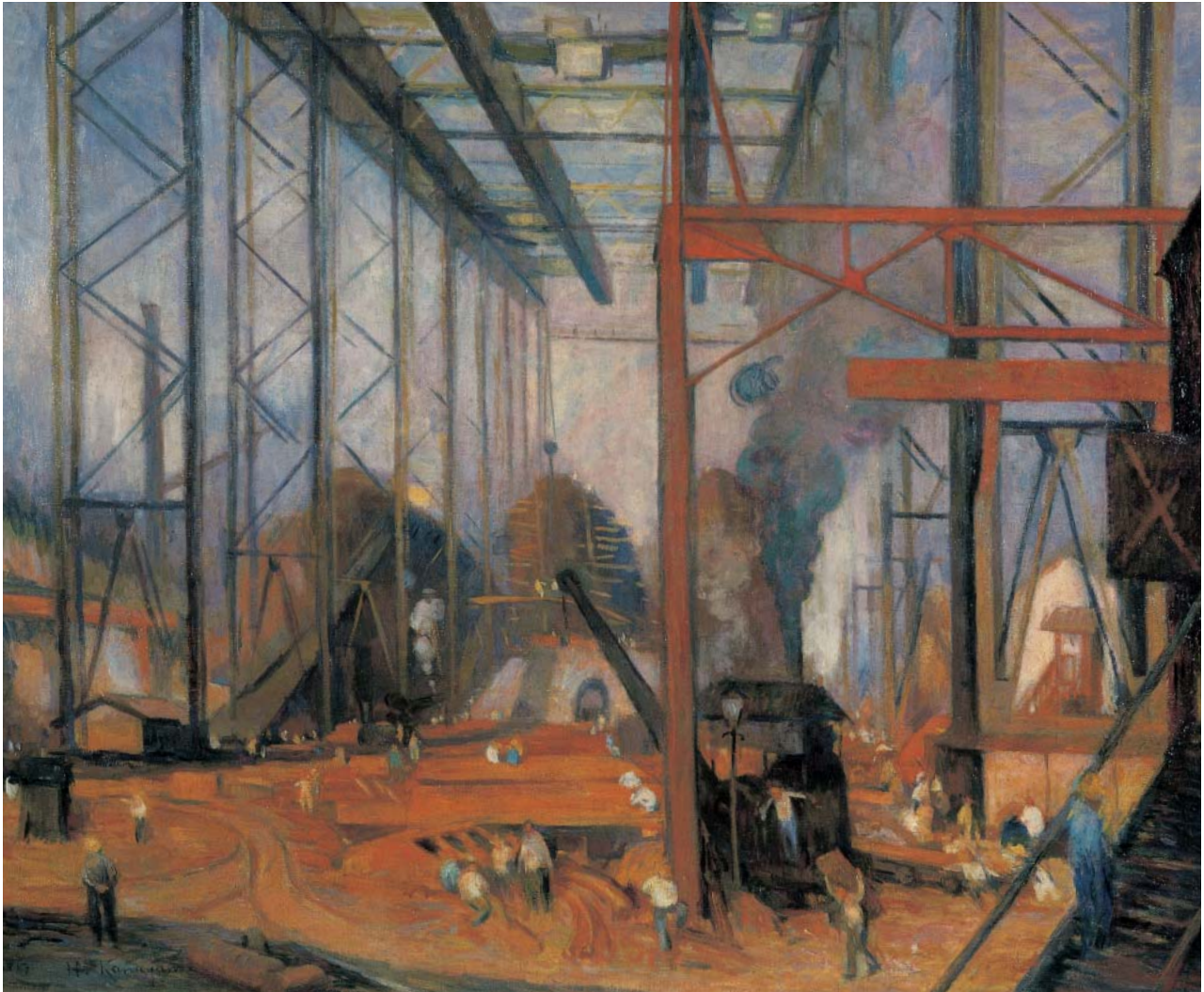


Kawasaki 美術館  
金山平三の世界



「造船所」 1917年（大正6年） 97.3×121.8cm 油彩・布 川崎重工業株式会社蔵

## 両者の交流の契機 となった作品

ここに描かれているのは、一九二二年（大正元年）十一月に川崎造船所により建造されたガントリークレーンである。以後一九六二年（昭和三十七年）まで、神戸における造船業のメッカであるとともに、その威容は長らく神戸港のランドスケープとしての役割をも果たし、金山をはじめ数多くの画家や写真家などにモチーフを提供し続けてきた。

約四年にわたる滞欧期に金山が最も影響を受けたとされているのがフランス印象派であった。本作も洋画家 正宗得三郎の指摘にあるように、奥行ききの表現や煙の描写など、モネの「サン＝ラザール駅」を思い起こさせる。しかし印象派に特有の点描画法は、金山にあつては帰国後早々に解消され、ここに見られる入念に塗り込められた色面など、より直接的な表現に取って代わった。

（兵庫県立美術館学芸員  
相良周作）



### 金山平三と川崎重工

金山平三画伯は、1883年（明治16年）神戸に生まれ、1964年（昭和39年）80歳で生涯を終えました。1909年（明治42年）東京美術学校（現在の東京芸術大学）を首席で卒業した後、欧州各地で制作を重ね、1916年（大正5年）には、第10回文展に出品した作品が特選第二席になりました。生涯にわたって旺盛な創作活動を続け、自然風土を相手に多くの名画を残し、その業績は近代洋画史上に燦然と輝いています。

川崎重工は第11回文展に出品された「造船所」（上に紹介）が縁となり、その後、交流を深めました。画伯の晩年には、自選作品138点の永久保管の依頼を受け、その作品を預かるほどでした。後になり川崎重工は、一部の作品を残して、兵庫県立近代美術館（現・兵庫県立美術館）にすべて寄贈しました。